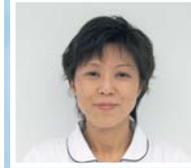
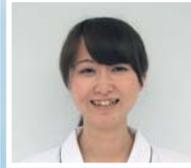
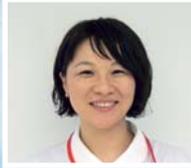
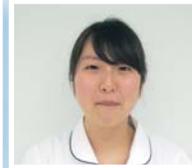


ふきのと

2015
春夏号
No.033



今年度は、看護師 18 名、臨床検査技師 3 名、放射線技師 1 名、社会福祉士 2 名、事務職員 6 名、計 30 名が 4 月から当院のスタッフとして新たにスタートを切りました。
明るく元気に頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

これからは総合診療“化”!



病院長 伊藤 誠司

3月の電子カルテ導入に際しては、職員一同に多大なご苦勞をおかけしました。職員一丸となって取り組んでいただいたおかげで大きなトラブルもなく稼働できたことは大変嬉しく思っております。もちろん事前の期待に完璧に答えられているかどうかと問われると否といわざるを得ない状況ではありますが、これまでのように関係者すべてが一致協力して改善していく努力が必要とされていると思います。今後もよろしくお願いたします。

さて、いわゆる2025年問題についてはいろいろな場面で聞かされていることと思います。団塊の世代すべてが後期高齢者になることと極端な少子化が重なって、医療と介護の需要と供給に大きな歪みが生じるため、地域ごとの調整を行うという動きになっています。私たちの病院にも柔軟な対応が必要ですので、新病院の構想も視野に入れつつ職員全体で乗り越えていかなければならない課題であります。

一方で、患者層の高齢化は疾病構造の変化や複雑化を伴っており、最初から複数の基礎疾患を持ち、日常の臨床の場面でも単純に一つの病気だけを診れば良いというケースは無くなってきていると感じます。医療の到達目標も治癒(cure)から世話(care)へと変化してきており、私たちの行う医療もこれまでの専門分化の技量向上という面に加えて総合診療の技量も高める必要が強くなってきています。高齢者にとってはあらゆるものが負担であり、処方量が増えるにつれて医療による弊害が増加するともいわれており、検査の重複や過量な投薬などを防いで患者さんの負担を軽減することが必要です。個人で努力することも重要ですが、病院全体としての総合診療の力量を高めることが重要な課題と考えます。このためには情報共有することの大切さを今一度考えて、診療情報システムを活用するとともに、職員や関係者との間のコミュニケーションを十分にすることにより総合力で診療するように常に改善していく姿勢をとっていかねばなりません。

病院に関係するすべての人が前後、左右、縦横、すべての方向で気兼ねなく話せる関係を築いて“総合病院”としての力量を高めていきましょう。

シリーズ病棟紹介 — 第3回 —

7階北病棟

当病棟は、循環器内科と心臓血管外科の混合病棟です。全身に血液を送り出すポンプである心臓に対し、内科・外科ともに力を合わせ連携し、治療する医師5名とナース23名が元気よく働いています。人生80年とすれば約30億回も動き続ける心臓をできるだけ長持ちさせるために、私達は患者さんの生活背景を考えた生活指導を行っています。また、薬剤師や栄養士・理学療法士・臨床工学技士・メディカルソーシャルワーカーとも連携し、自宅での療養生活が安心して過ごせるようにチームで支える医療・ケアに心がけています。

生活習慣が変化し、不規則な食習慣や運動不

足・過度なストレスを受けることにより、疾患に罹患し入院される患者さんは20代から100代までの幅広い年代にわたります。制限することは一見苦しいことですが、「その人らしさを大切に、自己管理を支える」ため私たちができることを実践していこうと日々奮闘しています。

7階北病棟看護師長 原田 郁





DMAT (Disaster Medical Assistance Team; 災害医療派遣チーム)?



副院長 円山 啓司

DMATは災害・事故現場、被災地域にいち早く出動し、災害の超急性期から医療を提供する医療チームです。DMATは医師、看護師、調整員などの医療従事者5名程度からなる小規模チームで、大規模災害や広域地域災害などの際に、いち早く出動して災害急性期(48時間以内)の医療を提供します。

え! たったの5名のチームで何ができるの? 確かに小規模チームですが、各地域から多くのチームが被災地域に集結して、合体チームとなって組織的に活動する機動性のあるチームです。ただ、円滑に組織的な活動を行うには、すべてのDMATが標準化された災害対応ルールや診療手順、搬送基準などを共通言語として共有しておく必要があります。そのため、DMATメンバーになるには、国が行っているDMAT研修を受け、資格を取得する必要があります。

一度研修を受け、資格を得てもそれだけで災害

時に多チームと連携して、安全かつ迅速に組織立った活動ができるものではありません。そのため、地域ブロック毎に技能維持研修や実動訓練が毎年行われています。また県防災訓練、市防災訓練にも参加し、他DMATや消防・警察等の関連機関との連携強化に努力していく必要があります。

“DMAT研修で、又不在か!”と思わないでください。何が起こるか分からない急性期の災害現場で、安全に組織立った活動を速やかに行い、防ぎえる災害死を減らすには、普段からの絶え間ない訓練・研修を繰り返し、どんな災害等にも対応できるようにしておくことは非常に大切です。まだ災害現場に出動したことがないチームですが、災害時にはどこよりも早く災害現場で活動できるように、皆様方の暖かいご支援・ご協力を今後もお願い致します。

救急看護認定看護師について



救急看護認定看護師 山本 尚樹

認定看護師とは特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師のことを指します。現在21の専門分野に誕生し、各分野でスペシャリストとして活躍していますが、救急看護認定看護師も、そのうちの1つである「救急看護」分野のスペシャリストとして1997年に誕生し、救急領域の患者さんや家族、医療従事者に対し、専門的な実践・指導・相談の3つの役割を果たしています。

救急患者は時と場所を選ばず発生するため、救急看護はあらゆる場面で行われます。その対象は病気や怪我など多種多様にわたる、あらゆるライフステージの患者さんとその家族です。また、救急患者は突然の病気や怪我の発症、その重さから苦痛や不安を抱えやすいといった特徴があります。

そのような患者さんや家族を看護する救急看護認定看護師には、求められる能力があります。そ

れは、あらゆる状況下で患者さんに応じた迅速な救命処置やトリアージを実践することです。「トリアージ」とは、患者さんの病気や怪我をみて、治療の優先順位をつけることを言います。また、救命処置の普及に従事することや、患者さんとその家族の擁護者となり「患者さんや家族にとって何がよいのか」を考え行動することも求められる能力です。

これらの役割と能力を念頭におき、患者さんや家族に対して、心身の苦痛を軽減できるような看護を提供しています。また、医療従事者や地域住民を対象に、心肺蘇生法や応急手当講習会を開催し、救命の普及や不慮の事故予防にも取り組んでいます。

救急医療に関して、ご質問やご相談がありましたら、遠慮なくお申し出ください。



下肢静脈瘤について

心臓血管外科 科長 星野 良平



足の表面の静脈がミミズのように太く目立つようになる病気が下肢静脈瘤です。主にふくらはぎの静脈が目立つようになります。初めのうちは見栄えが悪いなど美容上だけの問題ですが、進行すると、夕方になると足がむくんでだるい、こむら返りを起こしやすいなどの症状が出てきます。さらに悪化すると皮膚が硬くなって色が変わりついには皮膚潰瘍ができてきます。

静脈は心臓に血液を戻す血管です。立っているとき足は心臓より下にあるので、血液が逆流しないように静脈の内側には「弁」が付いています。静脈瘤ではこの弁の働きが悪くなっています。原因は不明ですが、長時間あまり動かないで立っている仕事の人に多く起こります。女性になり易いと言われています。

治療の第一歩は生活習慣の改善です。よく歩くようにして足の筋肉を使い静脈の流れをよくします。休憩時間や眠る時は足を高くします。次の治療は弾性ストッキングの着用です。適切なストッキングの使用で症状は改善し、中には静脈瘤が目立たなくなる人もいます。当院では専門の技師が足を測定し、足にあったストッキングを選んでいきます。

軽症で美容上治療を望む人には外来で行える硬化療法があります。中等度以上の症状の方には手術をお勧めします。全身麻酔で静脈を切除しますので数日間の入院が必要です。症状によって治療法が異なりますので、専門の医師に相談してみてください。

「弾性ストッキング」ってご存知ですか？

臨床検査科 弾性ストッキングコンダクター 渡辺 智美

弾性ストッキングは医療用のストッキングで、静脈血栓の予防や静脈瘤症状の軽減に役立ちます。

脚の静脈に何らかの異常が起こると脚の血液循環が悪くなります。そのため血液が脚にたまり血管が徐々に太くなります。始めのうちは特に困った症状は出ませんが、さらにひどくなると脚がむくむ、だるくなる、疲れる。さらに進むと痛みがある、つりやすくなるなどの症状が出てきます。この状態が長く続くと、皮膚炎や潰瘍が出てきてしまいます。

このような症状を軽減させてくれるのが弾性ストッキングです。脚をしっかり圧迫するので脚から心臓へ血液が流れやすくなるように作られています。

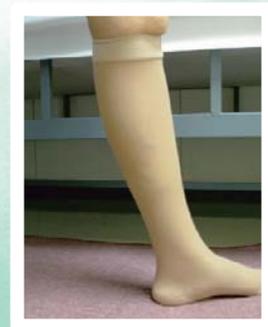
弾性ストッキングの効果は証明されていて医療現場でも使用されていますが、どんな弾性ストッキングでも良いというわけではありません。その方の静脈瘤の状態、足のサイズ、太さ、などにより圧

力の強さやストッキングの形状が変わってきます。医師の指示により適切なストッキングを、正しい方法で使用することが効果を得るポイントです。

当院では専門の講習会を受けた弾性ストッキングコンダクターが、患者さん一人一人に適切なストッキングをお勧めしています。ストッキングのはき方や扱い方など詳しく説明しますので、ぜひ相談にいらしてください。



▲ 装着前



▲ 装着後



電子カルテを導入しました



電子カルテと高精細モニター

当院では平成27年3月に電子カルテシステムを導入いたしました。これまでもお薬や検査の指示、検査結果の確認についてはコンピュータを使用したオーダリングシステムで行ってききましたが、3月からはこの機能に加え、医師、看護師、専門職の記録や放射線検査、心電図、エコー、内視鏡などさまざまな検査結果をすべてコンピュータ上で管理、照会できるようになりました。

このことにより患者様の診療情報の速やかな共有が可能となり、より安全で質の高いチーム医療につながると考えております。

導入からまだ日が浅く、操作方法や運用変更に伴い、受付や診療に時間がかかる場合もありますが、これからは患者サービス向上に向け、日々取り組んで参りますので、ご理解とご協力をよろしく

お願いいたします。

また、電子カルテシステムより2ヶ月ほど先行して会計番号表示システムを導入いたしました。

患者様のお名前を直接呼び出して請求書をお渡ししていたところを、一旦番号札をお渡しして、請求書が出来上がった順に番号で表示してお知らせする運用に変更しました。

導入の目的は、

・お名前を直接呼びしないため、プライバシーの保護になる

・同姓同名の渡し間違いをなくす

・おおよその待ち時間が把握できる

・一旦トイレなどで

窓口を離れても、状況が把握できるなどがあります。



会計番号表示モニター



地域医療連携の会 会員紹介

くらみつ内科クリニック 倉光 智之先生



診療科目 内科、消化器内科、現在最も力を入れている領域は糖尿病

資格 総合内科専門医、肝臓専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医・指導医、超音波専門医・指導医、消化器がん検診認定医（胃・大腸・肝胆膵）・指導医、胃腸科認定医、プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、臨床内科医会専門医、日本糖尿病協会療養指導医、日本禁煙学会認定指導医、医師会認定産業医

平成18年に秋田市山王5丁目（秋田パークホテル斜め向かい）に内科診療所を開業しました。もうすぐ10年になります。平成7年より平成18年までの12年間、市立秋田総合病院の消化器内科・代謝科に勤務しておりました。平成18年より現在まで、市立秋田総合病院消化器内科の非常勤医師として木曜日の午後に肝臓がんの治療の手伝いに伺っています。市立病院の多くの先生と顔見知りであり、全ての診療科と密に医療連携させていただいております。

当診療所は、消化器病（胃、大腸、肝胆膵）、糖尿病、高血圧、高脂血症、痛風、禁煙治療などに力を注いでいます。B型肝炎、C型肝炎、ピロリ菌除菌、糖尿病の治療はかなり専門的かつ積極的に行っています。

とりわけ糖尿病は新薬が多数登場し、治療の選択肢が増え、質の良い血糖管理が容易になりました。糖尿病には消化器がん（特に肝臓がん、膵がん、大腸がん）の合併が多いことがよく知られており、また肥満にもがんの合併が多いことが知られています。当診療所では、糖尿病の管理が良くなるにつれ将来のがんの合併が問題になると考え、禁煙治療、肥満治療も含め糖尿病患者さんががんで命を失わないような糖尿病トータル医療に現在最も力を注いでいます。平成26年度の当診療所の消化器検査件数は、胃内視鏡1,164件、大腸内視鏡367件、腹部超音波検査1,666件、外来大腸ポリープ切除93件でした。検査はすべて院長が行っております。当診療所の詳細に関しましては当診療所のホームページをご覧ください。【ホームページ】<http://www.kuramitsu-clinic.com/>

●●●● 病児保育園「あすなろ」 ●●●●

風邪をひいた！熱があがった！お子さんの病気はいつも急にやってきます。でも、どうしても仕事は休めないときってありますよね。そんな保護者の要望に応えるため、市立病院では昨年4月に病児保育園「あすなろ」を開設しました。

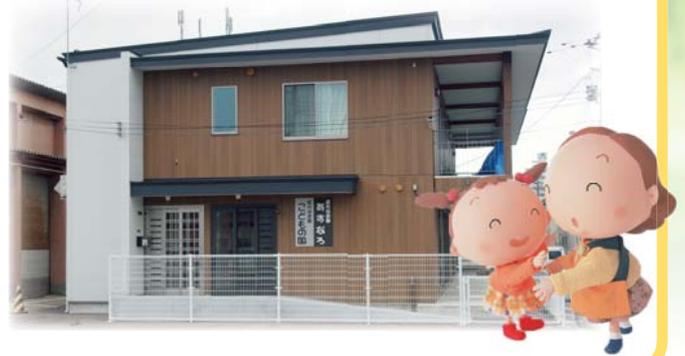
建物は、第3駐車場の隣にあり、感染症向けの3つの個室や病気の回復期向けの大部屋で病態に合わせた保育ができます。また、毎日小児科医が巡回し、ひとりひとりの様子を確認しているほか、常時、2名の保育士と1名の看護師を配置して、具合の悪いお子さんでも安心して過ごせるように家庭的な雰囲気づくりにつとめています。

昨年度は611名が利用し、その保護者からは、病児保育園が出来て良かった、これ

からも利用したいなど、ありがたいお言葉を頂戴しております。

利用時間は、平日の午前7時から午後6時までですが、事前に利用登録が必要ですので、この機会にぜひ登録してください。

詳しくは、病児保育園「あすなろ」（電話018-887-1520）か、病院ホームページでご確認ください。



ファミリーマート市立秋田総合病院店



今年1月28日（水）に当院の地下1階に新しくファミリーマートが開店しました。

お店は年中無休で24時間営業し、おにぎりやお弁当、お菓子や飲料など一般のコンビニと同じ品物から、入院生活に必要な生活用品やケア用品まで幅広くとり揃えています。また、公共料金のお支払いやEdyやWaconなどでもお買い物が出来て大変便利です。ぜひご利用ください。



市立秋田総合病院

理 念

- 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。

基本方針

- 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。
- 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供と相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。
- 職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。
- 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。